酒々井町
郷土研究会々報
第20号
昭和56.4.13
発行
酒々井町郷土研究会総務部

昭和55年度 定時総会を終えて

新芽のように 希望の春

ふくらんでいく 五年目を迎えた郷土研

夢、 会員 二四九名！

あれこれ。 会長 未だ元気！

あれこれ。

ひとつずつ、ひとつずつ 苦しみながら 楽しみながら書いた会報 二十号

叶えていきたい 「百号」まで書き続けると 筆者57才……

あ、 春一番のため息吹く。

1月24日 13時30分
新しい町公民館大講堂に
会員80名余の出席を得て開会。
町長さん、教育長さんの来賓のもと
議事はスムーズに進行……。

史跡見学会出席者 延	426名	(6回)
古文書学習会 〃	120名	(11回)
石仏調査 〃	65名	(7回)
野草の会 〃	255名	(8回)
史談会 〃	126名	(4回)
郷土史講座	46名	(1回)
サイクリング 〃	40名	(2回)
運営委員会 〃	142名	(5回)
総会	76名	(1回)
会報発行		(5回)

以上の事業を消化して、56年度からは新たに「史跡文化財愛護活動」を満場一致で決議、郷土研の活動内容に一段と深みを加える試み。収支予算の面では今まで5万円の補助金が4万円に。町財政の応援もこれからは「独立独歩」を積極的に考える時か？

役員改選については、監査委員の加川治良氏、委員の川島計介氏、野谷敏子氏が任期を満了され新しく次の方々を運営委員に加え、他の委員は留任決まる。

筋玉子、中村寛、鶴岡知子、鈴木悦子、青山久子、白石栄子、青木のぶ、古川今子、木村とし子、室賀淳吉、川島重利、中野敏子、以上12氏の方々。

旧役員の方々御苦労さまでした。これからもよろしき御指導を。

新入会員のご紹介

236	行田	みつ
237	横山	ふみ子
238	岡田	勝海
239	広井	久次郎
240	玉村	栄子
241	和谷	雅江
242	吉松	みつ江
243	河上	せつ
244	伊藤	孝横
245	河村	文子
246	内海	みさつ
247	越川	登だ
248	滝田	代子
249	岡田	文子

第020号（No2）　酒々井町郷土研究会々報　昭和56年4月13日(月)

むらさきはな菜

花ダイコンによせて

金杉智恵

紫色の美しい花をつけた「花だいこん」の花を各処で見られる季節がやって参りました。「花だいこん」は中国の原産で、戦後内地に入ってきたと思われる菜の花を紫色にしたようなたくましい感じの花です。最近は酒々井・中川・上岩橋を中心にして家々の庭や垣外・路傍などにも見られるようになりました。

酒々井町でこの花を見られるようになったのはまだ歴史が浅く十数年前でありましょう。私の知るかぎりの範囲でそのルーツを探ってみましょう。

私が「花だいこん」の名を知ったのは、昭和四十一年三月頃の朝日新聞「声」の欄でありました。

その頃中国帰りの方によって「花だいこん」の名前や原産地などについて「声」欄に数回投書があり話題となっていた頃でした。

この花だいこん談議を見て、長年この花の育種に打ちこんできた茨城県の薬学博士、山口誠太郎氏が全国の愛好者に種を分けてあげたいと、家族の山口文子さんが同年八月十七日の朝日「声」欄に

花だいこんの種どうぞ」という題で投書されました。

「病床にある私の父は、戦時中南京の紫金山のふもとで、咲き乱れるうす紫のこの花の美しさに打たれ、内地にその種を持ち帰りました。それから二十数年来栽培し知人や近隣の方におわけしてきましたが、今はその父も老齢で、身も思うにまかせず、今年もたくさん取れた種をそのまま埋もれさせてはと思うこのごろ、さらに多くの方々に日本中いたる所この花を見ることが出来るようにと、父の病床からのお願いです。種子を御希望の方に御送りいたします」

という内容で、この呼びかけに全国から約一万通もの希望者が殺到したそうです。

私もこの時申込みをした一人です。以来ずっと栽培して毎年春の庭を明るくしております。

聞くところによりますと、酒々井の島田さんも上岩橋の相京さんも朝日新聞の記事を見て、別のルートから種を入手され栽培されているとのことでした。

この年の九月十日日本経済新聞の園芸欄に「野趣あふれる紫花菜」と題して、

花だいこんを大きく取り扱っていました。それによりますと、「花だいこん」とは通称で、原産地の中国では

菲菜（ひそくな）

和名では

紫花菜（むらさきはなな）

というようです。

別名には

諸葛菜
紫羅蘭花
紫金草
芦菔菜
オオアラセイトウ

など〈〈と、たくさんの呼び名があるそうで、それだけに親しまれ愛しまれてきたことがうかがわれます。

「花だいこん」は野性化していて、一回庭などに植えると自然に落ちた種が毎年いっぱいに殖えてゆく強さをもっています。酒々井字西井戸の山裾には数年来大群生をしております。人里離れて見る人のいないのは残念です。

「むらさきはなな」

何ともかれんで、美しいひびきの呼び名ではありませんか。姿にぴったりの名だと思います。

強く美しく、野趣あふれる「紫花菜」を今年もたくさんの人に見ていただき、酒々井町のいたる所で楽しめる花としたく念願しております。

尚、前述の山口誠太郎博士は「全国の愛好者に種子を分けて」と遺言をされて十九日（朝日「声」欄にその投書が掲載されて二日の後）にお亡くなりになりました。家族の方は博士の遺志をついで一五〇〇キロ、三十二万粒ほどの種を全国の愛好者に送られたということです。

戦争の悲惨さを身をもって味わった博士は「この花が平和日本のため国内に広く美しく咲く」ことに願いをこめてある時には粘土に混ぜて旅の車中からまいたこともあったという……。

博士から送られた種は――あれから十五年、今年も十日ほど前からうす紫色に咲き初めました。

（昭和五十六年三月二十日記す）

郷土研日誌

一月十七日　運営委員会

一月二十四日　定時総会

多数の出席者を得て盛況のうちに諸議事を進行承認・後半の発表会は中村寛氏の「酒々井歌吟」に始まり、民謡踊りと続き、なごやかに……。

二月七日　七草かゆを食べる会

真新しい畳の部室に集まり、真新しい台所で、真新しい芹の香をきざみ込んだかゆを食べて今年一年の無病息災を願う。60名

二月十四日　古文書学習会

ある時には粘土に混ぜて旅の車中からまいたこともあったという……。

二月十五日　石仏調査

三月七日　古文書学習会

三月十五日　石仏調査

三月十七日　運営委員会

第020号（No3）　酒々井町郷土研究会々報　昭和56年4月13日（月）

酒々井町の行事 2題

『お地蔵さま』

宮田敏司

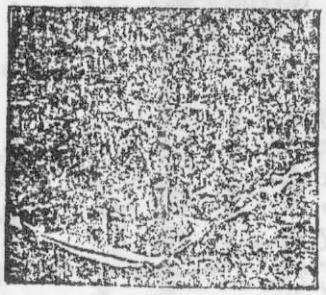
さて、この「お地蔵さま」はいつごろ　何のために始められたのか、村の最長老に聞いてみました。

「その昔、村に疫病が発生し、それを除くために村の誰れかの手で作られた様です。当時十二戸だった家々に一体づつこの地蔵を安置し、それを追い払ったと聞いていますが…。自分の親のその親の代からずっと続いているようで、二、三百年位はたっているのでしょう。」

そんなに古いものなのか。確かにお地蔵様を見ると虫がつき、形のくずれたもの、又男の子だけに引き継がれてきたこと等古い歴史がしのばれます。

伊篠地区では「お地蔵さま」という行事が古くから行われています。

地区の三才から中学生までの男の子達が仲間となって、一月二十八日に十二体ある地蔵を、地区の中心の道ばたに持ち寄ります。最近では一月最後の日曜日に行っております。道を通る人達にお参りをしてもらい、又子ども達が家々をまわりお参りをしてくれるようにお願いするのです。夕方になると集まったおさい銭でお菓子などを買い、平等に分け、家に持って帰ります。いつも食べているものばかりなのに格別美味しいのか、大きな袋から取り出して食べている顔は幸わせそのものです。すべて子ども達に与えられた特権、子ども達の連体感を強めるいい機会であると思っています。



道ばたに並べられた十二体のお地蔵様を見ると、自分達の子どもの頃がなつかしく思い出され、長い年月この地の子ども達を見守ってきてくれた安らぎを覚えます。

これからもずっとこの「お地蔵さま」は引継がれていく事と思います。

（酒々井小学校PTA会報より）

毎年おびしやの時期が来ると、□□□□

考　や　し　ぶ（ぶ）　び　お

福田富蔵記

「おびしや」とはどう書くのが本当だろうか、と思い十数年前から調べてみました。

昔からの行事の記録や会計簿などを見ると「御南社」「御卑社」または「おびしや」などと書いてあります。

千葉県のおびしや研究家の説では「昔は神社で行われ、その年の稲作の豊凶を弓的で占う行事で、騎馬で行うものと徒歩で行うものとがあった。騎馬で的を射るのが「やぶさめ」徒歩で的を射るのが「歩射」で、即ちこの歩射が「御歩射（おぶしや）」である。」と、記されています。その後神社で行うのをやめて現在のように、それぞれの氏子の家で行うようになったそうです。

上岩橋の場合鎮守様が、駒形・菊賀・大鷲の三社ありますが、毎年おびしやの当番が（輪番制）昔から引続き書いている掩護え収には一番刻（上）に「奉謝」と書きます。

（註）「掩護え収」とは御神体に代るべき紙包のようなもので、毎年当番が紙に願文と神社名・年月日を記して貼り重ね、次の当番に引継ぐものです

先年、大崎の木村氏の氏神である妙見様の掩護え収を一番最初まで開いて見ましたら寛延四年（宝暦一年）と明和三年に書いたものに「奉社」とあり、天明七年には「奉謝」と書いてありました。現在は「奉謝妙見大菩薩掩護仮」と書いております。

現在は弓的も行われなくなったので、氏神様の御加護により過去一年間無事平穏を心から感謝し奉ると共に、今年一年五穀豊穣と氏子の安全を祈願致します。という意味で「御奉謝（おぶしや）」でよいのではなかろうかと私は考えますが、皆さんはどうお考えでしょうか。

柏木にはおぶしやとは別に昔から「高粥」（農作物の豊凶占い）の行事が終戦まで残っていたそうです。

現在千葉県に残っている「やぶさめ」の行事は、

安房郡三芳村増間　日枝神社の「御神的（おまと）」

同　鴨川市仲　吉報（きっぽう）八幡の「やぶさめ（さえぐさ）」

の二つが民俗資料として県指定となっております。

第020号（NO4） 酒々井町郷土研究会々報 昭和56年4月13日(月)

郷土研行事計画

※今回より諸行事の申込みの受付日を定めます。今月は4月16日9時以後

	四月	五月	六月
古文書学習会	11日(土) PM 1:30 中央公民館	9日(土) PM 1:30 中央公民館	13日(土) PM1:30 中央公民館
石佛神社調査	12日(日) AM.9:00 中央公民館 尾上地区（雨天中止）	10日(日) AM 9:00 中央公民館前 飯積地区（雨天中止）	14日(日) AM 9:00 中央公民館前
野草の会	23日(木) 山菜料理をたべる会 AM.11:00 中央公民館 先着 50名 会費 500円	1日(金) えびねらん園見学（成東町.千葉らん園） PM.1:00 町役場前集合 先着40名 会費 ¥1,000（レンタカー使用）	21日(日) 町内史跡めぐりと合流して伊篠新田 国鉄酒々井駅東口 9:00出発（昼食持参） 雨天28日
	お申し込みは整理の都合上 4月16日(木) AM 9:00以後とします (96) 1171 教育委員会 又は 町史編さん室 相京まで 尚、船橋見学会、県外(鎌倉)見学会も同様に受付をいたします。		
文化財愛護の日 次回は7月ごろに（カンカンムロ 上岩橋貝層）草刈り作業を予定しています。	4月26日 AM 9:00 墨六所神社に集合 「さらしなしょうま群生地」の環境改善作業をいたします。 ◦秋、10月頃に白いさわやかな花をつける「さらしなしょうま」は群生する事は大変めずらしいといわれ、この地を町指定の保護地としておりますが近年環境が変わり花の数がめっきり少なくなってきています 指導者の指示に従って、日光量等を整えてる作業をいたします 墨、尾上、飯積、馬橋等の会員で都合のつく方の御協力をお願いします 作業の服装と「鎌」を御持参下さい。		
町外（船橋）史跡見学会	5月12日(火) 先着50名 レンタカー使用 （コース）船橋資料館～中山法華経寺～奥の院～滝不動～船橋森林公園 AM 8:30 役場集合 会費 ¥2,000		
サイクリング	5月17日(日) AM 8:30 中川薬師堂集合（雨天中止） 教委共催 柏木～京善～台方麻賀多神社～京善旧宅～船形印波国造墓～成田ニュータウン～大会解散		
県外（鎌倉）史跡見学会	6月7日(日) 鎌倉見学（長谷観音、大仏、八幡宮、鎌倉宮） 先着 50名 会費 ¥3,500 光ドライブイン 時間（6:45） 酒々井ショッピングセンター前（6:55） 中央公民館前（7:00）出発		
町内史跡めぐり	6月21日(日) 雨天の場合 6月28日(日) 昼食持参（教委共催） 国鉄酒々井駅 東口 9:00 出発 上郷～荷賀～伊篠新田～伊篠白幡～松虫木		

〈会計報告〉

七草かゆの会（2月7日）

収入	会費	24,500
	放課後	5,000
		29,500
支出	材料外	31,435
		△1,935

不足分1,935円は郷土研より補助いたしました 以上報告致します 京増

後記

はじめに悲しい御知らせです。郷土研のバスの運転手として研究会発足当初からお世話になりました布川恒男さんが、去る3月31日、静かに亡くなりました。郷土研の長い間の御苦労の源泉であり、常に冷静で、笑顔を絶やさない人でした。何の心配もなく、目的を達する事が出来たのは布川さんの会員の皆さまの安らかな御冥福を心から御祈りいたします。

春とともに我が家にもピカピカの中学生と高校生が誕生。「ろうばい」と「沙羅双樹」の小さな苗木を記念に植える。狭い庭に小さな樹。踏みつけられることなく無事に育つかどうかと「カケ」をする息子連。原価八百五十円也。

とっておきの内諸（のほんとに内諸の話！京増君に春真近 相手は不明。(M)